

令和元年度
事業報告書

社会福祉法人息吹

令和元年度社会福祉法人息吹事業報告

《総括事項》

1 箕面市指定ごみ袋製袋作業の受注激減について

生活介護もみじの家の基幹作業である箕面市指定ごみ袋製袋作業について、箕面市の仕様変更検討に伴って12月以降に受注が激減したことで工賃も激減して喫緊の課題となっており、もみじの茎切や事務用品のパッキングなど多様な新規作業を開拓して生産活動プログラムを計画する必要性が生じている。

2 グループホームについて

法人事業所の利用者以外にも対象を広げて新規入居の促進に取り組んでいるが、体験だけして入居を見送ったり、自立生活や体調不良等の事情で退居が相次いでおり、空室が慢性的に生じている状況である。

3 利用者の減少について

法人が運営する日中活動系事業所全般において、利用者が減少しており、収入減少の要因となっている。一年に数件もの一般就労が実現したり、体調不良で通所が安定しなかったり、入院で契約解除せざるを得なくなったり、理由は多岐にわたっている。昨年度は、一時期に新規利用が重なって、受け入れを抑制した事業所があっただけに、長期的な利用動向を見極めつつ、基幹相談支援センターや医療機関等と密接な連携を図ることが重要である。

4 利用者及び家族の高齢化について

少子高齢化の影響は、精神障害者の日常生活及び社会生活に多様な問題となって表れている。当法人が事業運営のなかで認識している課題としては、精神障害当事者本人の高齢化、家族の高齢化によって家族が担えなくなった本人への支援体制の変化、逆に家族の高齢化によって家族への家事や介護などを本人が担うことの負担や不安の高まりの3点に整理できる。

こうした課題への対応としては、本人や家族のニーズに基づきながら、障害福祉サービスだけでなく高齢福祉サービスや民生委員児童委員、その他の地域のインフォーマルサービス等を活用しつつ、成年後見制度を始めとした権利擁護の制度も含めて柔軟に取り組んでいく必要がある。

5 新型コロナウイルス感染拡大について

世界的な新型コロナウイルスの感染拡大によって、緊急事態宣言が発令されるなか、社会福祉施設は十分な感染防止策をして運営を続けるよう要請されており、法人が運営する事業所でも、「三つの密」を避けたり、マスク、咳エチケットの徹底、検温と体調確認、こまめな手洗い、施設内の消毒、職員のテレワーク、大勢が集まる会議やイベントの中止など、できる限りの対策をとって運営し続けている。

《事業別報告》

1 理事会・評議員会開催状況

(1) 理事会開催状況(全5回)

第1回理事会(全議案を同日可決、承認)

開催日時: 令和元年5月29日(水) 午後2時00分から

第1号議案 職員給与規程一部改正の件

第2号議案 平成30年度社会福祉法人息吹事業報告及び決算並びに職務執行状況報告の件

第3号議案 令和元年度定時評議員会招集通知記載事項の件

第4号議案 役員候補者選任の件

報告第1号 評議員選任の件

第5号議案 評議員選任・解任委員選任の件

第2回理事会(全議案を同日可決、承認)

開催日時: 令和元年7月31日(水) 午後2時00分から

第6号議案 理事長選任の件

第3回理事会(全議案を同日可決、承認)

開催日時: 令和元年12月2日(月) 午後2時00分から

第7号議案 就業規則一部改正の件

第8号議案 職員給与規程一部改正の件

第9号議案 職員等育児・介護休業等規程一部改正の件

第10号議案 利用者預り金等管理規程制定の件

報告第2号 地域活動支援センターパオみのお運営規程一部改正の件

第11号議案 施設長選任の件

第4回理事会(全議案を同日可決、承認)

開催日時:令和2年3月16日(月) 午後2時00分から

- 第12号議案 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づくパオみのお(地域移行支援及び地域定着支援)運営規程一部改正の件
- 第13号議案 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づくパオみのお(特定相談支援事業)運営規程一部改正の件
- 第14号議案 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づくかたばみ寮(共同生活援助)運営規程一部改正の件
- 第15号議案 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づくもみじの家(生活介護)運営規程一部改正の件
- 第16号議案 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づくあっとほ一む(就労継続支援B型)運営規程一部改正の件
- 第17号議案 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づくシエスタ(就労継続支援B型)運営規程一部改正の件
- 第18号議案 令和元年度補正予算(案)及び職務執行状況報告の件
- 第19号議案 令和2年度事業計画(案)及び予算(案)の件
- 第20号議案 評議員選任の件
- 第21号議案 施設長選任の件

(2)評議員会開催状況(全1回)

定時評議員会

開催日時:令和元年6月12日(月) 午後1時00分から

- 第1号議案 平成30年度社会福祉法人息吹事業報告及び決算の件
- 第2号議案 役員選任の件
- 報告第1号 評議員選任報告の件

2 地域交流啓発事業及び全体事業

- 5月18日(土) 春のバザー出店
- 6月14日(金) 息吹合同レク・バーベキュー大会(パオみのお)
- 7月1日(日) 南小学校「みなみパワフルランド」出店
- 7月3日(水) ハートパーク(萱野北小学校ワークショップⅠ)
- 7月8日(月)～12日(金) ハートパーク(萱野北小学校もみじの家施設体験)
- 7月12日(金) みのおライフプラザ夏まつり出店
- 7月16日(火) ハートパーク(萱野北小学校ワークショップⅡ)

- 7月27日(土)～28日(日) 箕面まつり出店
- 8月30日(金) あかつき福祉会納涼祭出店
- 9月6日(金) 息吹日帰り旅行(兵庫県三田市方面)
- 12月12日(木) こころの会交流会
- 12月20日(金) みのおライフプラザ冬まつり出店
- 1月18日(土) ハートパーク(萱野北小会館・発達障害に関する学習会)

3 ボランティア・見学・実習の受入れ

(1) ボランティア・見学・実習の受入れ状況

ボランティア受入れ延べ人数	36人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	41人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	139人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	5人

(2) 主な見学及び実習の受入れ機関等

箕面市、箕面市新規採用職員研修、箕面市職員福祉体験研修、箕面市立萱野北小学校、精神保健福祉ボランティアこころの会、民生委員・児童委員、大阪バイオメディカル専門学校、大阪健康ほいく専門学校、花園大学、藍野大学短期大学部

4 会議への派遣

- ・(社福)箕面市社会福祉協議会評議員会
- ・(社福)あかつき福祉会評議員会
- ・(社福)あかつき福祉会 グループホーム運営委員会
- ・(財)箕面市障害者事業団採用検討委員会
- ・(財)箕面市障害者事業団理事会
- ・(財)箕面市障害者事業団評議員会
- ・(財)箕面市障害者事業団自主事業運営委員会
- ・箕面市障害者市民施策推進協議会
- ・箕面市地域自立支援協議会運営会議
- ・箕面市地域自立支援協議会相談支援部会
- ・箕面市地域自立支援協議会地域移行・定着支援部会
- ・箕面市地域自立支援協議会権利擁護部会
- ・箕面市地域自立支援協議会障害者就労系通所事業所 情報交換会
- ・アンテナショップ運営委員会
- ・大阪精神障害者地域生活支援連絡協議会
- ・箕面市生活困窮者自立支援事業推進協議会
- ・箕面市社会福祉法人連絡会

5 職員研修実施状況

(1) 職場研修

- ・(社福)風媒花との合同研修
- ・公正採用選考人権啓発推進研修(ハラスメント、LGBT、障害者差別)
- ・施設コンフリクトに関する研修
- ・障害者保健福祉施策に関する研修
- ・大阪府地域移行支援・地域定着支援制度に関する研修(伝達講習)
- ・発達障害に関する研修(伝達講習)
- ・障害者総合支援制度における指定事業者集団指導研修(伝達講習)

(2) 主な参加研修

① 資格取得研修

- ・サービス管理責任者研修
- ・相談支援従事者現任研修

② 業務能力開発のための研修

- ・感染症予防対策講習会
- ・大阪精神障害者地域生活支援連絡協議会定例会(計3回)
- ・大阪精神障害者地域生活支援連絡協議会新任者研修(計2回)

③ 人権問題及びその他の研修

- ・大阪府障がい者虐待防止・権利擁護研修
- ・公正採用選考人権啓発推進員研修

パオみのお(相談支援事業)事業報告

1 概要

相談支援事業の営業時間を変更することで、訪問回数や関係機関との連携を確保し、より円滑な相談業務を実現できるようにした。

退院促進の取り組みについて、精神科病院との連携した取り組みを続けてきた結果、実績が上がりつつある。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 指定特定相談支援事業（計画相談）

「サービス等利用計画」については、パオみのおが箕面市委託相談事業所であることから、困難事例を中心に新規受任作成件数を増やすことが求められている。

平成30年度の報酬改定において計画相談のモニタリング頻度が増やされた課題については、令和元年9月から営業時間をこれまでの11時から18時30分までから9時から17時30分までに変更することで、訪問回数や関係機関との連携を確保できるようにした。

(2) 指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）

箕面市地域自立支援協議会地域移行部会において、精神科病院と連携して地域移行支援に係る院内説明会や、病院職員が地域の日中活動事業所を見学するなど取り組みを続けてきた。今年度は2件の実績があり、うち1件は院内説明会に参加した病院職員の提案によって支援が始まったもので、取り組みの効果が表れている。

(3) 委託相談支援事業（箕面市地域生活支援事業）

箕面市の委託相談支援事業所として、精神障害者の困難事例への対応件数を増やすよう求められている。障害福祉サービスを利用することで生活の質の向上が見込まれるものの、様々な理由でサービス利用に至らないなど、対応が困難な事例が増えている。

3 今後について

(1) 指定特定相談支援事業（計画相談）

困難事例を中心に新規受任件数を増やすよう求められていることについては、職員体制を確保するとともに、職員の相談スキルの向上に向けた育成体制を充実させる必要がある。

(2) 指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）

個別支援や地域の体制整備について、大阪府地域精神医療体制整備広域コーディネーターや自立支援協議会地域移行・定着支援部会と連携した支援を行うとともに、引き続き部会における検討を行う。

(3) 委託相談支援事業（箕面市地域生活支援事業）

困難事例への対応については、引き続き箕面市基幹相談支援センターと連携して支援に当たるとともに、職員研修等による能力強化と連携強化に努める。障害福祉サービスが必要にもかかわらず、サービス利用に至っていない障害者への支援については、柔軟に利用が可能な地域活動支援センターを活用することで対応していく。

4 主な活動実績

(1) 計画相談支援事業（指定特定相談支援事業） (単位:件)

	元年度	30年度	前年度比
サービス等利用計画作成	93	85	109.4%
モニタリング	291	225	129.3%

(2) 地域相談支援事業（指定一般相談支援事業） (単位:件)

	元年度	30年度	前年度比
地域移行支援	2	1	200.0%
地域定着支援	0	0	-%

(3) 相談支援事業実績（箕面市地域生活支援事業） (単位:件)

	元年度	30年度	前年度比
相談支援	2,728	2,787	97.8%
地域生活サポート	23	94	24.5%

※地域生活サポートについては、令和元年度から計画相談対象者を除いた数値に変更された。

パオみのお(地域活動支援センター)事業報告

1 概要

サロン利用が減少しており、相談支援事業と併せて地域活動支援センター I 型として営業時間を見直したことで、効率的な相談支援業務を展開できるようになったが、サロン利用の減少傾向は続いており、引き続き課題である。

2 特筆すべき事項と課題

- (1) サロンの営業時間について、地域活動支援センターと相談支援事業の利用状況を考慮して課題を検討し、利用者アンケート結果も踏まえて、令和元年9月から地域活動支援センターの営業時間を相談支援事業と同じ9時00分から17時30分(土祝は13時45分まで)に変更した。これによって、営業時間を1時間延長することができ、午前の時間帯の利用ニーズに対応している。
- (2) 延べ利用者は平成30年度よりも回復したが、5年前(平成26年度 3,560 人)から約2割減少しており、全体的には利用者の減少傾向が続いているため、営業時間変更に当たって地域活動支援センターに対する利用者ニーズの調査を法人の全利用者を対象に実施したり、個々のサロン利用者の普段の意見を把握しながら運営している。
- (3) 利用ニーズについて、かつてのように多くの利用者が集まって談笑したり、調理や食事を楽しんだりする利用者が激減しており、サロンで過ごす利用ニーズが一変している。
- (4) サロンで過ごすことが難しい利用者を対象に実施してきたグループワーク事業については、月2回の活動が定着しており、新たなグループを創設して拡充している。

3 今後について

- (1) 多様化する利用者ニーズに対応するため、内部研修の実施や外部研修の積極的活用により職員育成に努める。
- (2) グループワーク事業については、二つのグループそれぞれの雰囲気に参加しやすいものに醸成して、さらに充実させることが重要である。

4 主な活動実績

- (1) 当事者活動支援 8人(42人)
魁スポーツ推進振興クラブ(カメカメクラブ、カチカチクラブ等は休会中)
- (2) レクリエーション活動 157人(121人)
日帰り旅行、花見、外食、ショッピングツアー、カフェ、茶話会、

DVD鑑賞会、魚釣り、焼肉パーティー等

(3) 独自事業

①グループワーク事業	延利用者数	107人(74人)
②食事作り事業	延利用者数	327人(284人)
③送迎事業	延利用者数	101人(45人)

※(カッコ)内は昨年度実績

5 利用者状況

(1) 利用実績

	元年度	30年度	前年比
延べ利用者数	2,936人	2,779人	105.6%
開所日数	309日	307日	100.7%
1日あたり平均利用者数	9.5人	9.1人	104.4%

(2) 登録者数

令和2年3月31日現在(単位:人)

	元年度	30年度	前年比
男性	172	163	105.5%
女性	133	115	115.7%
合計	305	278	109.7%
新規登録者数	27	11	245.5%

(3) 障害種別

令和2年3月31日現在(単位:人)

	登録数	精神	身体	知的	発達	高次脳
男性	172	153	1	9	8	1
女性	133	124	0	2	6	1
合計	305	277	1	11	14	2

かたばみ寮(共同生活援助)事業報告

1 概要

法人事業所の利用者以外にも対象を広げて新規入居の促進に取り組んでいるが、体験だけして入居を見送ったり、自立生活や体調不良等の事情で退居が相次いでおり、空室が慢性的に生じている状況である。

2 特筆すべき事項と課題

- (1) 1名の新規入居があったが、体調を崩して精神科入院となり、退居することとなったため、令和2年4月には定員14人中10名の利用となる見込みである。
- (2) 空室への入居について、法人が運営する事業所の利用者だけでなく、対象を広げて入居調整してきたが、体験だけして入居を見送ったり、入居しても体調を崩して退居するケースが多く安定しない状況が続いており課題である。
- (3) 個別支援計画については、年に1度の計画作成と半年に1回のモニタリングを行っている。昨年度に引き続き、日中活動先の就労継続支援B型事業所及び地域活動支援センターとの連携強化を図りつつ計画を作成するよう留意した。
- (4) 利用者の障害種別が精神障害だけでなく知的障害や発達障害など多様化しているとともに利用者の高齢化も進んでいる。

3 今後について

- (1) 空室への入居については、引き続き法人が運営する事業所の利用者以外にも対象を広げて募集する。
- (2) 個別支援計画の目標に達していない利用者へのアプローチを関係施設、関係機関と連携をとりながら強化する。
- (3) 障害種別の多様化と利用者の高齢化により、支援力の向上・強化が求められている。世話人・生活支援員の体制を見直すとともに、内部研修の実施や外部研修への参加を積極的に行っていく。

4 利用者状況(令和2年3月31日現在)

①利用者数(単位:人)

	定員	利用者
かたばみ寮	2	2
第2かたばみ寮	4	3
ぶなの木荘	5	4
第2ぶなの木荘	3	2
合計	14	11

②利用者の特性

平均年齢	50.9 歳	
平均在籍年数	9 年 6 か月	
障害支援区分	区分 2	2 人
	区分 3	6 人
	区分 4	3 人

③利用者の日中活動先(単位:人)

もみじの家	4
あっとほーむ	2
シェスタ	0
就労	1
その他	4

生活介護もみじの家事業報告

1 概要

箕面市指定ごみ袋製袋作業について、市の仕様変更に伴って受注が激減したことで工賃も激減して喫緊の課題となっている。

生活介護プログラムについては、事業所としての経験を重ねて安定した運営となってきているが、収支面では3年連続の赤字となっており、課題である。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 日中活動支援

日中活動プログラムについては、週1回のミーティングにおいてプログラム内容を丁寧に説明したり、利用者の発案を促すなど、利用者が主体となって活動内容を決定できるように努めた。

個別支援計画を作成し、年2回の定期面談を通して具体的な目標や取り組みを検討した。その結果、利用日数を増加したり、より長時間の利用につながるなど活動意欲の向上につながった。

基幹作業である箕面市指定ごみ袋製袋作業について、箕面市の仕様変更検討に伴って12月以降に受注が激減したことで工賃も激減して喫緊の課題となっており、もみじの茎切や事務用品のパッキングなど多様な新規作業を開拓して生産活動プログラムを計画する必要があるが生じている。

(2) 地域生活支援

利用者が居住の場から安心して通所するための送迎サービスについて、利用ニーズに応じて、送迎ルート調整と送迎体制(車両及び職員体制)の確保に努め、往路送迎は車両2台で3便体制となっている。

日常生活において保清が苦手な利用者を対象とした入浴サービスについて、夏季には多くの利用があり好評だった。

(3) その他

関係機関と新規利用調整をして新規契約者数は増加したが、人間関係の不安や気分が安定しなかったり体調不良などの原因により、通所を休む利用者が増えたことで、延べ利用者数が減少した。

精神障害者理解促進事業ハートパークの一環として、萱野北小学校の6年生を対象にもみじの家で自主製品のナイロンタワシの作成を通して交流をした。

大阪北部地震によって損壊した南側ブロック塀について、建物所有者側の事情が解消されて、昨年秋に改修が完了して安全を確保できている。

歳末たすけあい募金配分金について、年始年末の利用者交流プログラムに活用して利用者から高い満足を得てきたが、年末に急きょ障害福祉サービス事業所が配分対象から除外されたため、プログラムの規模縮小と利用者負担増をせざるを得ない状況がある。

3 今後について

延利用者数の減少については、パオみのお等の相談支援事業者や関係機関と連携してPRするなど新規利用者を増やす取り組みが必要である。

利用者の満足度が高い作業である箕面市指定ごみ袋製袋作業が激減している状況について、箕面市をはじめとする関係機関と粘り強く協議を重ねて、早期に受注量を回復できるよう要望を続ける。

4 主な活動実績

(1) 就労支援事業

① 主な就労支援事業収入

事業内容	元年度	30年度	対前年度比
受託事業(箕面市ごみ袋製袋等)	1,936,225 円	3,307,917 円	58.5%
その他(自主製品)	822,346 円	19,000 円	4328.1%
計	2,758,571 円	3,326,917 円	82.9%

② 利用者一人当たりの月額平均工賃額

元年度	30年度	対前年度比
9,765 円	12,517 円	78.0%

(2) 日中活動プログラム

① 主な日中活動プログラムの活動実績

プログラム	年回数	概要
作業	257 回	箕面市指定ゴミ袋、おみくじ折り、オレンジリボンなど
ミーティング	48 回	プログラム内容及び施設利用ルールなどについて、利用者に説明したり意見を出し合ったりする。
調理実習	24 回	ボランティアグループこころの会と利用者が調理し食事する。
健康教室	23 回	医師及び看護師による健康相談(血圧、脈拍など)及び健康知識の講習会など。
音楽	21 回	ボランティアの方と利用者が器楽演奏と合唱をする。発表の機会も設ける。
運動	19 回	稲スポーツセンター等の運動施設やもみじの家において、バレーボール・バスケットボール・卓球等に親しむ。
映画鑑賞	12 回	DVDによる映画鑑賞をして感想文を書く。
お菓子作り	12 回	簡単に作れるお菓子を食材調達して楽しく作って食べる。
カラオケ	11 回	もみじの家でカラオケを楽しむ。
もみじカレッジ	11 回	漢字、算数、地理、英語などを職員と楽しく学ぶ。
ゲーム	6 回	カードゲームやボードゲームなどを楽しむ。
パソコン	5 回	パソコンを使って基本操作などを体験しスキルアップする。

※上記の他に、フリータイム(11)、散歩(7)、図書館散策(5)、茶話会(3)、合同レク(1)、外出(1)、地域清掃(1)など。

②ボランティア・見学・実習参加状況

ボランティア受入れ延べ人数	36人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	5人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	47人
萱野北小学校体験実習受入れ延べ人数	59人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	2人

(2) その他の活動

- ①施設外活動(箕面市精神保健福祉ボランティアグループこころの会交流会参加、春のバザー・箕面まつりへの出店参加)
- ②啓発活動(精神障害者理解促進事業ハートパーク)

5 利用者状況

(1) 利用実績総括表

令和元年3月31日現在

項目	元年度	30年度	対前年度比
利用契約者数	25人	21人	119.0%
平均年齢	49.7歳	48.6歳	+1.1歳
稼働日数	246日	245日	100.4%
延べ利用者数	2,652人	2,729人	97.2%
1日平均利用者数	10.8人	11.2人	96.4%

(2) 障害者福祉手帳所持状況

令和元年3月31日現在(単位:人)

	利用者数	1級	2級	3級	B1	B2	なし
男	18	1	14	1	1	1	0
女	7	0	5	0	1	0	1
合計	25	1	19	1	2	1	1

就労継続支援B型あっとほ一む事業報告

1 概要

個別支援計画において具体的な目標や取り組みを検討し、年2回のモニタリングを通して検証するとともに、関係機関との連携により生活及び就労に係る支援を実施した。

配食サービスでの安定した受注があったため、利用者の作業ペース及び作業内容に配慮した作業機会の提供ができた。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 就労支援事業

安定利用する利用者が増えたため、延べ利用者数(総労働時間)が1割以上増えたが、それを上回る配食サービスの収入増加もあったため、月額平均工賃額が増えた。

利用者のニーズに基づいて就労移行支援や生活介護への利用変更を支援したり、一般就労した企業の店舗工事期間中にあっとほ一むを再利用する支援を行った。再利用のケースについては、日中活動の場を確保できただけでなく、他利用者への刺激にもなり、有用な支援となった。

(2) 個別支援計画

個別支援計画の作成や年2回のモニタリング及び随時の面談を通じて具体的な個別の支援を行った。成果としては、利用者の意思を尊重した短期目標の設定と課題達成のための取り組みを行うことにより、職業準備性の向上がみられ、企業や機関での実習や見学に繋がった。また、計画作成の過程で関係機関との連携が広がった。

3 今後について

就労支援事業について、効率的かつ効果的な事業運営をめざして、必要に応じた業務改善に努め、利用者の生活安定や就労のステップアップに資する事業体系を構築し続けていく必要がある。また、より地域に根ざした活動を行っていけるよう、地域住民との交流を図り、地域のニーズを把握しつつ、事業経営を進めていく。

新規の利用者の受け入れについては、定員と利用契約者数のバランスを考慮しつつ、必要に応じて箕面市を始め、茨木市や池田市等の近隣の関係機関等への説明を行い、新規利用者の受け入れを行っていく。

あっとほ一むにおいて配食サービス事業を始めて10年になろうとしており、調理設備の更新が必要になってきている。

4 主な活動実績

(1) 就労支援事業

① 主な就労支援事業収入

事業内容	元年度	30年度	対前年度比
自主製品事業(ビーズ・陶芸)	0 円	1,500 円	0%
受託事業(もみじの茎切り)	174,452 円	103,360 円	168.8%
自動販売機管理	102,520 円	135,160 円	75.9%
配食サービス事業	12,947,450 円	12,575,720 円	103.0%
その他(印刷など)	94,350 円	114,380 円	82.5%
計	13,318,772 円	12,794,960 円	104.1%

② 利用者一人当たりの月額平均工賃額

元年度	30年度	対前年度比
17,183 円	16,306 円	105.4%

③ ボランティア・見学・実習参加状況

利用見学及び実習受入れ延べ人数	18 人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	24 人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	2 人

(2) その他の活動

- ① 施設外活動(箕面市精神保健福祉ボランティアグループこころの会交流会参加、春のバザー・箕面まつりへの出店参加)
- ② 啓発活動(精神障害者理解促進事業ハートパーク)
- ③ 余暇活動(あっとほーむ忘年会、新年会、茶話会、外出レクなど)
- ④ 専門指導研修(調理師による利用者向け、職員向け講習会)

5 利用者状況

(1) 利用実績総括表

令和2年3月31日現在

項目	元年度	30年度	対前年度比
利用契約者数	25人	24人	104.2%
平均年齢	50.0歳	45.9歳	+4.1歳
稼働日数	246日	248日	99.2%
延べ利用者数	3,143人	2,832人	111.0%
1日平均利用者数	12.8人	11.7人	109.4%

(2) 障害者手帳所持状況

令和2年3月31日現在(単位:人)

	利用者数	2級	3級	B1	B2	重複
男	14	12	1	1	0	0
女	11	7	3	0	2	1
合計	25	19	4	1	2	1

就労継続支援B型シェスタ事業報告

1 概要

就労支援事業については、主力の焼き菓子販売やもみじの内職作業が安定していたため、昨年度より収入面では増額することができた。しかし、利用者の入れ代わりは多く、安定通所できる利用者も減ったことで平均利用者数が減少した。そのため一人当たりの平均工賃額は増加することになったが、繁忙期は利用者の負担になる部分もあった。

利用者の支援に関しては、個別支援計画を作成し、年2回のモニタリングをすることによって具体的な目標や取り組みを検討し、効果的な就労支援の提供に努めた。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 就労支援事業

商品開発については、季節限定商品の製造に取り組むとともに、専門家からの指導を受け新商品の開発を行った。

利用者が作業しやすい安全な環境づくりに工夫して取り組み、各々の体調やニーズ等をもとに作業分担、作業時間等について、改善を続けることが重要である。

(2) 個別支援計画

利用者個人の面談を通し、個別支援計画の作成と年2回のモニタリングを行い、具体的な個別の支援を行った。このことによって、短期的な目標設定と利用者の意思確認を行い、他機関への実習や見学、関係機関との連携強化といった成果につながった。モニタリング以外でも、都度必要に応じて面談等を行い、利用者の日常生活の悩みの解決を行った。

(3) 利用者の状況

利用者の入れ替わりはあったが契約者数は変更がなかった。また、利用時間や日数が少ない利用者が多かった。しかし、目標に向けて体力作りや生活のリズム作りが順調に向上している利用者もおり、利用者同士で刺激にもなっていた。

3 今後について

喫茶の利用客を増やすために、チラシの作成やポスティングなどを行う一方、就労支援事業としてだけでなく、地域住民との交流や啓発活動としてガレッジセールの開催など工夫を凝らしながら、地域に根ざした活動を行う。また、喫茶のメニュー

一においても、新たに箕面産ゆずを使用したケーキセットを追加する等の充実を図る。

商品開発については、新商品及び季節限定商品の研究開発、リサーチや顧客満足度調査などに取り組むとともに、環境の変化を苦手とする利用者が新商品の製造作業にそれぞれのペースで取り組めるよう、作業支援の強化も行う必要がある。

焼き菓子の新商品開発や喫茶メニューの充実によって就労支援事業の内容が拡充することで、利用者の作業内容も多様化し職域拡大が想定されるため、新規利用者の受け入れについても関係機関等へのチラシ配布などを行いながら進めていく。

4 主な活動実績

(1) 就労支援事業

① 主な就労支援事業収入

事業内容	元年度	30年度	対前年度比
焼き菓子販売	4,009,592 円	3,924,146 円	102.2%
委託事業(もみじの茎切り等)	250,000 円	240,000 円	104.2%
計	4,259,592 円	4,164,146 円	102.3%

② 利用者一人当たりの月額平均工賃額

元年度	30年度	対前年度比
15,718 円	12,092 円	130.1%

③ ボランティア・見学・実習参加状況

ボランティア受入れ延べ人数	0 人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	18 人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	9 人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	1 人

(2) その他の活動

- ① 施設外活動(市内小学校イベント参加、箕面市精神保健ボランティアグループこころの会交流会参加、市内お祭りへの出店参加)
- ② 啓発活動(精神障害者理解促進事業ハートパーク)
- ③ 余暇活動(なかよし会年 1 回実施)

5 利用者状況

(1) 利用実績総括表

令和2年3月31日現在

項目	元年度	30年度	対前年度比
利用契約者数	19人	19人	100.0%
平均年齢	39.6歳	40.3歳	▲0.7歳
稼働日数	244日	244日	100.0%
延べ利用者数	2,265人	2,740人	82.7%
1日平均利用者数	9.3人	11.2人	83.0%

(2) 障害者福祉手帳所持状況

令和2年3月31日現在(単位:人)

	利用者数	1級	2級	3級	A	B1	身体 3級	なし
男	9	0	6	1	0	0	0	2
女	10	0	5	1	1	1	1	1
合計	19	0	11	2	1	1	1	3